

ユニット名	島根大学陸上競技部 S.C.A.R.E(スケア) Shimadai Sports Club for Action, Responsibility & Environment
代表者	陸上競技部 主将 松下玲旺
所属人数	56名
達成に資するSDGs目標	3 すべての人に健康と福祉を 4 質の高い教育をみんなに 11 住み続けられるまちづくりを 12 つくる責任つかう責任 15 陸の豊かさを守ろう 17 パートナリーシップで目標を達成しよう
活動概要	本ユニットでは、島根大学陸上競技部が母体となって運営する「島大スポーツクラブ」の活動を通して、SDGsの理念に沿った持続可能な地域づくりおよび人材育成に貢献することを目的とする。「島大スポーツクラブ」は、大学の短期的・人的資源を活用しながら、地域社会と連携し、スポーツの力で人とまちを元気にすることを使命として活動している。以下、クラブの理念を前提に、3本柱を軸に活動を展開する。 ① 地域スポーツ支援と健康増進の推進 (SDG 3, 4, 11) 本クラブの強みである「陸上競技の専門性」を活かし、幼児・児童を対象とした陸上教室(月に3回程度)や陸上大会(8, 11月予定)を開催し、子どもたちの運動機会創出や運動能力の向上を支援する。 ② 環境・資源保全への貢献 (SDG 12, 15) 日常的に利用する競技場や周辺地域において、月に1回程度の清掃活動や草刈りを実施する。さらに、競技用シューズ・ウェアなどの中古品リユース(寄贈・交換会, 11月予定)を行い、スポーツ活動における廃棄物削減と資源循環を実現する取り組みを行う。 ③ 情報発信と大学・地域のSDGs推進 (SDG 17) 活動内容や成果を、SNS・校内広報・地域紙等を通じて定期的に発信することで、SDGsに取り組む姿勢を学内外に共有する。学生主体のスポーツ団体として、地域・教育機関・行政等との連携強化を図り、本ユニットの取り組みが、他の学生団体や地域クラブの「モデルケース」となるような展開・波及を目指す。
主な連携先 (予定を含む)	島根県スポーツ振興課(2025年度「地域で取り組む生涯スポーツ推進事業:年間型」に採択済, 添付資料) 一般財団法人 島根陸上競技協会(普及・育成部との連携)
成果物の公表予定、 社会への波及効果	本ユニットの活動では、SDGsの理念を取り入れたプログラムを実践し、島根大学陸上競技部が「学生主体のスポーツ団体による地域貢献」の先進的な「モデルケース」となることを目指す。各活動軸とSDGs目標に即し、以下のように成果物の可視化と波及効果の創出を図る。 ①地域スポーツ支援と健康増進の推進 (SDG 3, 4, 11) 地域の幼児・児童を対象とした陸上教室、陸上大会および関連イベントの実施内容と成果は、陸上競技部の公式SNSや地域メディア(テレビや新聞取材)等を利用して広く発信する。これにより、地域における運動習慣の定着と健康意識の向上に寄与するとともに、大学生が専門知識を活かしながら教育的実践を行う場を創出する。加えて、学内外で開催される活動報告会に積極的に参加・発表することで、他のサークル・部活動団体への好事例の波及を図り、本学におけるスポーツを基盤とした地域連携・教育機能の強化に貢献する。 ② 環境・資源保全への貢献 (SDG 12, 15) 競技場やその周辺での清掃活動、廃棄予定だったシューズやウェアのリユース企画など、環境・資源に配慮した活動の実施状況は、写真・データを交えて公式SNSや大学広報を通じて定期的に公表する。これらの取り組みを通じて、学生自身が「つかう責任」を再認識し、循環型スポーツ活動の担い手となることを目指す。また、環境配慮型の取り組みを部活動単位で推進する先進事例として学内外に共有し、他の団体や競技種目への横展開を促す契機とする。 ③ 情報発信と大学・地域のSDGs推進 (SDG 17) 年間の活動成果をまとめた報告書を作成し、大学ウェブサイトや地域機関、教育関係者等に配信するほか、大学主催イベントやポスターセッション等での発表も行う予定である。公式SNS等を活用したリアルタイムな情報発信も継続的に実施することで、学生主体のスポーツ団体による主体的なSDGs実践の「モデルケース」としての発信力を高める。こうした情報共有を通じて、学内の他団体との連携強化や、地域社会との協働的関係の構築にもつながっていく。
活動報告書	今年度の取り組みとして、当初から予定していた通り、①地域スポーツ支援と健康増進の推進、②環境・資源保全への貢献、③情報発信と大学・地域のSDGs推進の3本柱を軸に活動を展開しました。以下に、その具体的な実施事項を挙げます。 ①地域スポーツ支援と健康増進の推進 地域スポーツ支援として、幼児から小学生を対象とした「島大スポーツクラブ」で、運動教室を月に3回程度、年間を通して30回程度開催しました。指導内容は走・跳・投といった基礎的運動能力の向上を軸に、発達段階に応じたプログラムを構築しました。単なる技術指導にとどまらず、挑戦する姿勢や仲間を尊重する態度といった人間形成も重視しました。また、島根県スポーツ振興課との連携(2025年度「地域で取り組む生涯スポーツ推進事業:年間型」)により「親子で体験する運動イベント」も年間で6回ほど開催しました。保護者の健康増進にも寄与するとともに、親子のコミュニケーションを向上させる場を創出しました。さらに、弊社主催「島根陸上競技協会 普及育成部の後援」の「陸上競技大会」を春と秋に2回ほど開催しました。大会では準備、競技運営および審判に至るまで部員が主体となり、子どもたちが日頃の成果を発揮できる舞台を創出しました。この競技会には、多くの保護者や地域住民の来場もあり、地域コミュニティの活性化にもつながりました。このようなスポーツを媒介とした世代間交流の場を創出できたことは、本活動の大きな成果であると考えています。 ②環境・資源保全への貢献 環境保全の分野では、日常の課外活動の中に環境への配慮を組み込むことを意識しました。陸上競技場や公共施設において、トレーニング前後の清掃活動を継続的に実施しました。例えば、砂浜練習の前には、砂浜清掃や海洋ごみ問題への啓発活動にも取り組みました。これらの活動を通じて、日頃のトレーニング環境への感謝の気持ちと地域環境への当事者意識を部全体で育みました。 また、競技場周辺道路の草刈り作業やごみ拾い作業も継続的に実施し、安全な練習環境の整備や地域の防犯・景観維持にも貢献しました。 さらに、資源循環の観点として、使用済み競技用シューズをNPO法人ワールドギフト様のご協力を得て海外へ寄贈しました。この取り組みは、SDGs目標12「つくる責任 つかう責任」に直結するものであり、物品の有効活用だけでなく、世界のスポーツ環境格差への理解を深める教育的機会にもなりました。 ③大学運営およびSDGs推進への主体的参画 (1)、②で挙げたようなSDGs活動は、SNSや報告資料を通じて積極的に発信しました。特に、弊社主催の陸上競技大会の様子は新聞に掲載されるなど、多くの人に注目されるイベントになりました。私たちの活動の可視化により、大学内外におけるSDGs意識の向上を図るとともに、地域との信頼関係がより強固なものとなるように努めました。 また、学生自身が企画立案・予算管理・広報・外部団体との連携を経験することで、マネジメント能力や社会的実践力の向上にもつながっていると実感しています。 ④来年度への展望 来年度は、今年度の成果を基盤とし、まずは「スポーツクラブ」の活動を拡充していきます。具体的には、開催回数の増加、対象年齢層の拡大、競技種目の充実を図り、より多くの子どもたちに継続的な運動機会を提供できる体制を整備します。すでに、ライフル射撃、アーチェリー、ローイング競技団体と連携した普及イベントを運営することが決まっており、松江市の子ども達が普段できないようなスポーツを体験する機会を提供します。このように、地域の学校や企業、自治体との連携をさらに強化し、私たちがスポーツを通じた学びの場をどんどん提供していきます。 また、例えば、遠征時にマイ歯ブラシ携帯するなどを呼びかけることや、トレーニングの前後の清掃活動の時間や実施場所の拡充を図ることで、環境・資源保全面にもさらに力を入れていきたいです。部員一人ひとりの環境保全への意識を高め、小さな行動の積み重ねること、地域における環境負荷の軽減を目指していきます。